



開物成務

令和元年 10月 17日(木) 発行

校長 津田 将美

トップアスリートが やってきた！

神奈川県の実業で、「トップアスリートのスポーツ教室」というものがあります。トップアスリートを小学校に派遣し、共に体を動かしたり、スポーツの素晴らしさを聞いたりすることにより、運動するきっかけをつくりながら、オリンピック・パラリンピック教育を推進することを目的としています。

なかなか人気の事業で、申し込んでも抽選で外れることが多いのですが、今年度はなんと開成小が選ばれました！やってきたのは、**リオデジャネイロオリンピック三段跳び日本代表の長谷川大悟さん**です。今も東京オリンピック出場を目指してトレーニングに励んでいるそうです。

お会いしてみると、どちらかというと華奢でスリムな印象を受け、この体のどこにオリンピックに出られるほどの力があるのか、不思議な感じがしました。実は子どもの頃は、運動が苦手だったと聞いて、更にびっくり。

授業の対象は、今、連合体育大会に向けて一生懸命練習を積んでいる6年生です。2時間扱いの中の1時間は、体育館で授業をしてくださいました。

小学生の頃は運動が苦手なゲームばかりをやっていたと聞いて、子どもたちも意外そうでした。

長谷川さんのお話は続きます。三段跳びについて、オリンピックについて、出場したリオ五輪の様子等、トップアスリートならではのお話で、とても興味深かったです。

でも長谷川さんは、子どもたちに「トップアスリートって、そんな遠い存在ではない」ということをこの後、教えてくださいました。

「継続すること、諦めないことが、目標達成の大きな要素になる！」

「挑戦することに、才能や時期は関係ない！」

自分自身も運動が苦手な中、中学校で陸上部に入り走り幅跳びに挑戦しますが、なかなか芽が出ない…。そんな中、高校生で三段跳びに出会った長谷川さんの本当の挑戦は、ここから始まります。そして諦めない心で挑戦をし続け、とうとうオリンピックに出場するトップアスリートに…。そんな長谷川さんの言葉であるからこそ、説得力があります。

今は苦手なことがたくさんあっても…

自分のやりたいこと、得意なことがなかなか見つからなくても…

何かに一生懸命取り組むことを続けていれば、いつかはきっと自分自身が本当に挑戦したいものが見つかるはず。そう、誰にでもチャンスはあるのです。

「夢や目標を持つことが、日々、自分を成長させる！！」

「努力って、そんなに大変なことじゃなくて、ちょっとしたことの積み重ね！！」

「周りの人を大切にしながら続けることが大切！！」

普段の勉強などを例に出し、わかりやすく心を込めて伝えてくださっていました。

最後に教えていただいた長谷川さんの好きな言葉も、とても印象に残りました。

「人間、本気になれば大差なし！！！」

正に、その通りですね。誰もがトップアスリートになるチャンスがある！そう考えるとわくわくします。トップアスリートとの素敵な時間でした。

【裏面に実技の様子を紹介しています】



トップアスリートがやってきた！ ～実技編～



速く走るコツを伝授



実際にやってみました



三段跳びの実演
空を跳んでいるようでした



最後に全員で記念写真

6年生を励ます会 10月15日(火)

6年生の連合体育大会に向けての練習と共に、励ます会の練習に全校で取り組んできました。校長室で仕事をしていると、教室棟の方からすばらしく張りのある声が響いて来て、心を込めた練習ぶりが伝わってきました。運動会で心をひとつにしてがんばってきた応援練習が、ここにしっかりとつながっていることを感じました。

中心になった5年生の態度は、とても立派でした。そして、壇上に胸を張って座る6年生の態度もすばらしかったです。そんな5、6年生を前に、1年生から4年生の子どもたちも、心を込めた全力で応援する姿を見せてくれました。

思いは、6年生に伝わったと思います。いよいよ24日の本番まで、あと一週間。全校の応援する思いを胸に、6年生は残りの練習、本番に向かっていきます。すてきさんの心のつながりを感じられる励ます会となりました。



見つけたよ すてきさん

～いのちを大切にする すてきさん～

廊下を歩いていると、前から何かを大事そうに手に乗せて歩いてくる子に出会いました。

「校長先生、見て、トンボだよ。」
掌の上にやさしくそっと置かれたトンボは、もう動いていません。

「死んじゃったのかな。」
「うん、そうみたい…。」
「埋めて、お墓を作ってあげる？」
「うん。」

きっとその子は、死んでしまったトンボを見て、どうしてもそのままにしておけなかったのだと思います。小さな命であっても、正面から向き合い、自分ができることをすることのできる心は、正に「いのちを大切にするすてきさん」です。

外の花壇の端っこに、小さなトンボのお墓を作りました。心配そうにしていたその子といっしょに、トンボのお墓に手を合わせました。

「やさしいね。トンボもうれしかったと思うよ。」
「うん…。」

やさしい気持ちに、心があたたかくなりました。

子どもたちは皆、やさしい心を持っています。でも、その心を何かの事情で表に出せないこともあります。また、勇気がなくて行動できないこともあるはず。だからこそ、自分がやりたい、やるべきだと思ったことは、小さなことでもひとつひとつ行動にうつすことのできる人になってほしいと思います。

いのちを大切にする心は、まずは自分自身を大切にすることから育まれていくのだと思います。